

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年3月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4678200108
法人名	有限会社 千華
事業所名	グループホーム 鶴と亀
所在地	鹿児島県熊毛郡屋久島町小瀬田849番地32 (電話) 0997-43-5501
自己評価作成日	平成27年2月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成27年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が一日の中で輝ける時間を作り、ご利用者の想いに添った暮らしを目指し、その人らしい暮らしを大切にしている。認知症の理解を深める為に外部・内部研修で認知症を探り、日々利用者と向き合っているためBPSDを引き起こさないケアを実践している。ご利用者の意思決定を尊重している。災害特に夜間帯は人員配置が希薄な為、「地域の協力」が必要なので普段からご利用者を理解して頂くよう、ふれあいの場所として運動会・敬老会・クリスマス会・ひな祭りを開催し、地域の方々にも参加してもらい、「地域の力」が確立されている。地域の住民・消防団と協働して活動している。又、自然に溢れた環境が身近にあり、広い敷地では気軽に散歩が行われ、畑では色々な野菜等を栽培し、収穫した野菜等はご利用者の食卓に盛り、みんなで作ったという喜びを分かち合っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・理念を基に全職員が意識して日々の業務を行っている。入居者の意思決定を大切に、人生の先輩として尊厳を重んじて接することができる。
- ・地域との交流については、毎年様々な機関と交流を持ち、「鶴と亀新聞」での配布等にて信頼関係を築くことができている。
- ・入居者との絆が途切れないよう、馴染みの方にホームに来院してもらったり、家族会や行事の実施等について積極的に取り組んでいる。
- ・職員はスキルアップについての向上心も高く、認知症指導者や介護福祉士の資格取得についても意欲的である。職員間も「お互い様」の気持ちを大切にしており、働きやすい職場体制となっている。
- ・入居者と職員、共に良好な関係性を築くことができおり、コミュニケーションが図れ、笑顔が多く見られるホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	独自の理念を掲げ、理念を玄関等、目のつく所に掲示し、申し送り時に音読し全職員が認識して実践につなげている。	毎朝理念を職員で唱和し、内容についても意識しながら、日々の業務に勤めている。適宜、見直しや職員で意見を出し合い、分かりやすく、身近な理念となっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加、ホーム主催の行事へ町長、議員、近隣住民を招待し、交流を深める取り組みを行っている。又、近所の方が野菜を持ってこられたり、一緒に畑仕事を行うなどの交流がある。地域清掃活動にも参加し、日常の散歩では地域住民との交流を持つ事ができる。	ホームの敬老会等、家族や地域・関係者等、幅広く呼びかけ、多くの人たちが参加している。地域で管理者の認知症についての講演をしたり、園児との交流や小学校の行事にも積極的に参加し、事業所と地域の絆も強いものとなっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ケアの問題や出来事について記事にした新聞を年4回発行し、ご家族や地域の方々へ配布している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりや実施した行事の報告を行い参加者より意見感想を頂き、課題を挙げ検討し、現場でのケアの質の向上へとつなげている。ご家族の参加もあり、ご家族の想いを地域住民へ伝えている。</p>	<p>運営推進会議には地域のスーパーマーケットの店長等も参加し、地域からの意見を聞き、良好な関係性を築いている。家族から行事への参加についても意見をもらい、サービスの向上に反映している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議やホームの行事に参加して頂き、職員や利用者との交流を行うことで、町との密な連携を図っている。町の介護相談員を受け入れ、ご意見など頂き協力関係を築いている。</p>	<p>町役場の担当者とも具体的に窓口に出向き情報交換を行っている。介護相談員の受け入れや民生委員の訪問等、常日頃から連携を取り、協力関係を築くことができている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>管理者・ケアマネが研修を受けたことがあり、マニュアル作成を行っている。拘束を行わず利用者の尊厳ある生活を職員が共通認識し、自由に暮らせるよう努めている。夜間のみ施錠を行っている。</p>	<p>身体拘束廃止マニュアルを作成しており、身体拘束は行っていない。ケース会議や研修会を開催し、ケアの向上を図っている。日中、玄関の施錠はせずに外出行動があっても職員が傍に寄り添い対応し、入居者も安心して暮らしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者が研修を受け、マニュアル作成。資料配布を行い、言葉かけなどを注意させている。又、支援の振り返りを習慣化し、虐待の防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>一部職員が外部研修を受けたことがあり、ホームのマニュアルとして準備されている。又、権利擁護が利用者中心のケアにつながる事を職員が認識している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書・重要事項説明書を重視し、料金、リスク、医療連携体制を十分に説明を行い、利用者・ご家族が理解・納得したうえで契約につなげている。又、解約時においても十分な説明をするように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議の参加や年2回の家族会、意見箱を設けたり意見要望の出やすい環境作りに努めている。出されたご意見・ご要望などは申し送りやケース会議で話し合い運営に反映させている。</p>	<p>利用者からは日々のふれあいの中で思いを聞いている。家族からは家族会や訪問時にコミュニケーションが良くとれており、その都度意見を聞くようにしている。家族へのアンケート調査を行い、職員全体で検討し、意見を反映している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回行っているケース会議などで職員の思いや意見を伝えられる環境を作っている。現場の声が運営に反映され良好な関係である。</p>	<p>職員会議やミーティング時に職員の意見や要望を聞いている。管理者も業務に従事しており、現場の意見を直に聞くことができる。個別面談やアンケートを実施し、環境面の整備や備品の購入等、積極的に意見を取り入れている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>資格や勤務年数に応じた給与体制や昇給、休日出勤手当など適切な対応に努めている。又、勤務希望に対しても柔軟に対応している。毎年、健康診断も実施、有給休暇も無理なくとる事が出来る環境である。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新規雇用の職員については研修期間を設け、新人研修も行っている。段階に応じた外部研修にも参加し、年間研修計画もあり実施している。リーダーの配置により、現場でのスキルアップに繋げている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ケアマネ連絡会への参加。他施設への研修・見学や自施設の研修・見学の受け入れを行うことにより、ネットワークができケアの質向上につなげている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始までに自宅や入院先の病院に訪問し、聞き取りを行うことで思いや不安を受け止め、本人の意向を理解できるように努めている。環境変化による不安を取り除くために個別でゆっくりと向き合い、利用者の求める暮らしを探り、安心な環境になじんで頂けるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の相談に応じ、不安・悩みなど家族の立場に立って受け止め、信頼や関係性を大切にしている。家族の満足度を高められるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族が困っている事、不安に思っていることを真摯に受け止め、今何が必要か見分け、適切な介護サービスを利用して頂けるように他事業所とも連携している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や畑仕事をなどを一緒に行い、協力しあう気持ちを大切にしている。又、利用者の生活機能に重点を置き、「できること」を活かす環境作りを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族と常に情報交換し、行事への参加や面会時の雰囲気づくりを行い、足を運びやすい環境作りに努めている。面会時は、利用者・家族が水入らずでゆっくり向き合い、団欒される環境を築いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>地域の行事への参加やお盆・正月の帰省、お墓参り、友人・知人の面会時の配慮などを行い、馴染みの関係が途切れないよう「気軽に立ち寄れる場所」作りに努めている。</p>	<p>入居者の友人・知人の面会がある。馴染みの地域に出かけたり、各地域の行事にも参加し、昔からのつながりを大切にしている。家族の協力をもらいながら、外食や理美容院、墓参りなどにも出かける支援をしている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>席順の工夫を行い利用者が孤立しないように努めている。気のあう利用者同士が楽しく関わり合える雰囲気もある。個々に応じた仲間づくりを大切にしている。気のあった利用者同士が楽しく団欒できる雰囲気もある。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退去や転居の際に、受け入れ先に情報提供を行っている。退去後の家族の相談事も気持ちよく受け入れ、行事への案内等も送るなど交流が持っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わり合いの中で個々の思いを真摯に受け止め、その人らしさを探り、その人の望む暮らしを支援する。思いを上手く言葉にできない方のサインングナルを受け止め、家族からも思い・意向を聞き、アドバイスを得るようにしている。	個々の状態に応じて、その人らしさを大切にしている。本人の意向や家族からの意見を取り入れ、可能な限り思いや意向を把握するよう努めている。意思疎通が困難な場合は表情や生活歴から汲み取ると共に家族から聞き、本人中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インタビューを行い、利用者や家族から聞き取りを行っている。又、居宅のケアマネや入院先などからの情報提供を受けている。情報を得る時は、プライバシー保護への配慮も欠かさないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なサービス提供を行い、記録をとり、利用者の心身の状態を把握し、その人が輝いてその人らしく暮らして頂けるように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の意向、主治医の意見、職員の意見・気づきを反映し、アセスメント・モニタリングを行い、利用者本位のより良い暮らしができる介護計画を作成している。	本人や家族の意向を把握し、介護計画に取り入れている。作成においても職員間で協議し、チームでより良いプランの作成を行っている。モニタリングも3ヶ月毎に実施し、状況に応じてその都度見直しも行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録や食事・水分摂取量・排泄関係なども記入し、常に情報を共有している。月に一度はケース会議等で個々の課題として話し合い、介護計画の見直しに活かしている。特に排泄と衛生面を重視している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お墓参り、病院受診、私物の品物など個々に応じた対応を行い、柔軟な支援を行い利用者、家族の満足度を高めるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療機関や福祉サービス、ボランティア・民生委員等との連携をとり、ドライブや行事へ参加し、楽しみの時間、輝ける時間を提供している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医を定めてはいるが、利用者・家族などの希望があれば意向を重視し、専門医、かかりつけ医へ付き添いを行い、結果を家族に報告している。定期受診の際、主治医からの注意事項があれば速やかに家族へ報告している。	隣町の医院が協力機関として連携を図ることができている。医療面のケアが必要な場合は必要に応じて往診を受けることができている。また、本人家族の希望する医療機関への受診にも対応できている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>ホーム内に看護師を配置し、介護職員との間に利用者の健康状態等についての情報が供されており、定期的な受診や緊急時の連絡体制が整っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、治療の経過や今後の見通しについて担当医や家族と話し合い、早期退院できるように努めている。又、効果的に治療が行えるよう情報提供している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>医師、家族、職員が密に連携をとり、本人・家族の意向を聞き、安心して納得した最期を迎えられるよう支援に取り組んでいる。医療ニーズが高まった時は、主治医により家族への説明がある。</p>	<p>重度化や終末期の支援について随時説明し、納得のいくようにしている。看取りについても経験した事もあり、医師の支援を受けることができれば、看取りの体制についても対応していく意向がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>避難訓練時に救急対応の訓練を行ってもらい講習に参加し、急変時に対応することは身につけている。ホームに設置してあるAEDの取り扱いの講習も訓練時に実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に昼間・夜間を想定し、避難訓練を利用者と共に行っている。地域の消防団にも協力を経て、緊急連絡体制ができています。手作りの防災具も目のつく所に置き、速やかに対応できるようにしている。	消防署の協力を得て年2回避難訓練を行っている。消防団や地域住民・スーパーマーケットの協力を得ている。手作り防災具も備え付けている。災害時の水や保存食も備蓄されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービスを提供する上で大切にしなければならないプライバシーの保護についての内部研修を行い、個々の人格を尊重し利用者の尊厳を大切にしている。	入居者の人格を尊重し、声かけ等については特に注意している。排泄や入浴時にはプライバシーに配慮した支援をしている。失禁時はさりげなく、人格を傷つけないよう対応している。トイレの入り口にのれんをかけて配慮した支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉に耳を傾け、希望があれば自己決定を大切にしながら、家庭的な環境づくり、雰囲気づくりが出来ている。権利擁護が守られた生活は、利用者本位の生活につながると認識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての一日の流れはあるが、ケアプランの中にその人らしさを反映し、制限をしないように努め、その人が生き生きと暮らせる事を大切にしている。例えば、畑作業・お料理作りなどしたい事が出来る暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	髪染めや化粧水購入の代行など希望に応じて対応している。利用者の好む衣服を着て気持ちよく過ごせるように努めている。又、馴染みの美容室に連れて行く場合もある。衣服の乱れ、髪の毛の乱れに配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に利用者の意見を反映している。職員と談話し何が食べたいですか？と問い、献立と一緒に考えたり、料理の下ごしらえに参加して頂いたり、食器と一緒に洗ったりする環境作りをしている。	地元の食材を使用したり、折々には行事食にすることで、食生活においても楽しみを持つことができている。入居者も皮むきしたり下ごしらえ・下膳など、職員と一緒に調理を行い、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態や食事の好み、摂取できる量を把握し、食事やお茶等を準備している。又、摂取量・水分量などを記録し、変化があればその都度話し合いを行い、必要な支援が行われている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々にあったケアを行い、就寝時には入れ歯を消毒液につけている。着床前に口腔内に食物が残らないようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	大体の排泄リズムがスタッフ間で共有されており、尿意・便意を伝えられない方はパターンに応じて声掛けを行い、トイレへ案内している。	排泄チェック表を把握して声かけ誘導で失禁数も減少している。オムツからリハビリパンツに変更となった事例もあり、自立への支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便の状態についての情報が共有されている。又、主治医に相談し、指示をもらうこともある。便秘が及ぼす影響について職員の知識があり、個々に応じた予防策（繊維の多い食材、水分、ヨーグルト・バナナを食べる）を重視している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決まっているものの、本人の希望や健康状態に応じ、柔軟な対応をしている。又、入浴確認票があり、清潔が保てるように配慮している。入浴を楽しみ、癒しの時間としていただいている。	入浴は週3回を基本に、本人の希望や清潔保持が必要な場合等、状況に応じ、いつでも入浴ができるようにしている。一番風呂や入浴剤の使用等、個々に応じた入浴を楽しむ事ができている。入浴拒否の利用者にはタイミング見て声かけをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>適度な活動により、安眠の支援を行う。利用者の状態や希望に応じ、短時間の昼寝の時間を随時設け、休息につなげている。又、ベッド周りの整理整頓も定期的に行い、清潔な環境にも配慮している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬局からの処方箋が薬の入っているピルケースに貼られており、常に目を通せるようになっている。又、症状に応じて主治医との連携を行っている。服薬の間違いないように職員同士が声を掛け合い確認している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々の生活歴等の情報をスタッフ間で共有し、家事参加などの利用者の特技が発揮できるよう支援している。又、散歩やレク、ドライブ・買い物等の楽しみの時間を提供している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>利用者の希望に応じ、お墓参りや地域の店への買い物などの支援を行うようにしている。また、天気の良い日には散歩をしたり、ドライブに行くなど外出の支援を行っている。又、家族への声掛け、文書での案内を行い参加して頂き、一緒に楽しみを味わう支援をしている。</p>	<p>敷地内は広く、散歩や近くの店へ買い物に出かけている。計画的に弁当持ってドライブで花見や外食に行っている。家族の協力もあり、美容室や墓参りにも出かけることができ、日常的に外出ができるように取り組んでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者本人の力量に応じ、家族と相談しながら、お金を所持し本人が買い物ができるように支援している。又、立替の購入についても行えている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人の希望に応じ、いつでも使用できる環境にある。手紙などの受け取りも行い、文書の目視での理解が難しい方は、職員が代読することもある。家族からの贈り物のお礼の電話を本人が希望する時など支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で明るく落ち着いて過ごせるよう配慮し、トイレ・浴室は清潔に心がけている。又、季節に応じた飾りつけをしている。テーブル等には季節の花などが飾られている。音・光などが認知症の方には不安・混乱を招く要素があるため環境作りを工夫している。	共用の空間には畳で寛げるスペースやソファも配置されており、快適に過ごしている。室内もLED照明にするなど、明るく落ち着いた室内となっている。BGMにクラシック音楽を取り入れ、精神的にも落ち着いて過ごせる工夫がされている。リビングは広く明るく冷暖房も充実し居心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや和室があり、利用者同士がゆっくり会話などを楽しめたり、居心地のいい場所として利用されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が昔から使い慣れた家具を持ち込まれている。又、利用者の状態に応じ、ベッドの変更や居室の模様替えを随時行い、不安のない環境作りを支援している。（仏壇、テレビ、テーブル、椅子、家族との写真等）	ソファや家族の写真・ダンス・衣装ケース等の使い慣れた物を持ち込んでおり、室内を自分の空間として認識できるように配慮している。ベッドは備え付けであるが、必要時は電動ベッドを使用したり、身体状況に応じた対応ができており、居心地の良い暮らしができるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ・浴室などに手すりを設置し、個々の状態に応じ手すりの増設も行っている。又、利用者の使いやすい家具の変更などの環境作りを随時職員で話し合い自立支援につなげている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない